

報 告

## 近畿病院図書室協議会第132回研修会

研修部

日 時：2014年2月8日（土）12:30～16:45  
場 所：コープ・イン京都 202号室  
テーマ：病院図書室における機関リポジトリの  
可能性

プログラム：

1. 機関リポジトリをする意味  
大阪大学附属図書館 前田 信治 氏
2. 機関リポジトリの開設と維持運営について  
一 関西福祉大学リポジトリの事例一  
関西福祉大学図書館 西本 朱美 氏
3. 医学情報とリポジトリ  
奈良県立医科大学附属図書館  
和田 崇 氏
4. 導入 & ランニングコスト  
株式会社アグレックス 福田 典雅 氏
5. パネルディスカッション  
病院図書室における機関リポジトリの可能性  
前田 信治 氏、西本 朱美 氏、  
和田 崇 氏、福田 典雅 氏

参加者数：27名

（講師4名、会員18名、会員外5名）

今回の研修会は、電子アーカイブシステム「機関リポジトリ」を取り上げた。

国立大学や規模の大きい私立大学の図書館ではよく見られる機関リポジトリだが、病院での導入はまだ少なく、現状ではどのようなものかも知られていない。そこで研修会に先立ち専用メーリングリストを立ち上げ、研修会当日に講師を務めていただく方々への質問ができる場を設けた。

メーリングリストでは、参加者間で質問や回答を共有でき、またリポジトリシステムのデモ

画面などに触れることもできた。

研修会当日は、前田氏から機関リポジトリ構築の意義について、現在の学術情報の流通の問題点を踏まえながら、わかりやすくお話いただいた。「そこから何が得られるか」ではなく、「一緒に何を目指すのか」が重要との言葉が印象的だった。これは近畿病院図書室協議会の精神にも通じるものだと思う。

西本氏からは、共用リポジトリサービスを利用することで、安価に担当者一人でも開設、運営されている状況を聞くことができた。一人担当者の多い病院図書館においてもリポジトリ構築が不可能ではないことがわかり、勇気づけられた会員も多かったのではないだろうか。

和田氏からは、共同リポジトリや医学情報におけるプライバシーへの配慮などの問題点についてもお話いただけた。すぐにはリポジトリ構築が難しい会員施設においても、病院誌の投稿規定を見直しておくなど、どのような準備が必要か具体的にわかり、大変参考になった。

福田氏からは、システム構築サービス企業として、誰もが気になる導入時やランニングコストの目安などを説明いただいた。

パネルディスカッションでは、会員からの質問に答える形で、原稿の募り方や著作権応諾の取り方など、紀要や病院誌の編集とも絡めてイメージしやすい実務的な話がうかがえた。施設ごとに導入へのハードルは異なるが、図書館担当者が機関リポジトリの意義を理解し知識を持つことで、貢献できると感じた。

（文責：高橋育子／姫路聖マリア病院）